

JLACCとは？

Japanese Language and Culture at Clarendon

米国サンフランシスコ市立Clarendon小学校で約50年間にわたり培われてきた、日本語・日本文化教育の実践モデルです。公立校の正規カリキュラム(指導言語は英語)と並行して日本語・日本文化を学ぶ、特色ある教育プログラムとして受け継がれています。

JLACCモデル実践者から学ぶ、新たなセミナーシリーズをお届けします！

「おいてけぼり」をなくす 実践シリーズ！

「日本語レベルがバラバラ」、「集中できない」、「学習への意欲がみられない」など、多様な学習者への対応に悩む先生方へ。
背景やニーズが異なる子どもたちが共に学ぶJLACCの実践例や工夫をもとに、「おいてけぼり」を防ぐ授業づくりについて一緒に考えます。

Chapter 1

8/19(水)
9:30~11:00

*日本時間

最初から色々な子がいることを想定した授業づくりと実践

「**学習者の多様性を前提とした授業**」とは？

昔話「**桃太郎**」を題材にしたJLACCの実践例を使って

学習者の多様なニーズへの柔軟な対応を

可能にする工夫・調整をご紹介しますとともに

参加者同士の情報交換も行います。

**▼ お申し込みはコチラ ▼**

【申込先】 <https://forms.cloud.microsoft/r/YazrVbT54j>

【申込〆切】 8/14(金) *日本時間

*年度内に『Chapter 2: 良い子とは誰のこと?』を開催予定です。

橋本由佳 先生

トロント大学で教育学博士号を取得。UNESCOアジア太平洋事務局でアジア11か国の初等教育推進に携わった後、カリフォルニア大学バークレー校講師を務める。サンフランシスコ市立クラレンドン小学校で13年間、JLACCプログラムコーディネーター兼日本語教師としてカリキュラム開発を主導。現在はKotoba Bridge LLC代表として、日本語・継承語教育の発展に取り組む。

マンフレッド涼子 先生

サンフランシスコ州立大学でMATESOL(英語教授法修士号)を取得。カリフォルニア州複数教科教員免許を所持。クラレンドン小学校で担任を務め、帰国後はインターナショナルスクールで日本語・ESL(英語学習支援)教員として勤務。2025年、同校での実践をまとめた電子書籍『アメリカ式！多様な子どもたちの才能を引き出す魔法～自主性のある学びの現場から～』を出版し、教育現場へ知見を発信。